

# 集落支援員だより

第 11号

発行者 東和地域集落支援員  
連絡先 66-2490  
発行日 令和2年 2月25日

**地域を思う 人を思う**  
今回、戸沢三区本多芳司さんに貴重な一言をいただきました。  
**地域(地方)と行政を考える**



十月十二日に襲来した台風一九号は、関東東北地方に甚大な被害をもたらしました。

福島県では阿武隈川の氾濫やその支流河川で大水害が続出しました。

特に岩代、東和地域では人命にかかわる事故や住宅崩壊、床上浸水、県道、市道の崩壊、橋の損壊、農業用施設の倒壊や土砂流入等、数えきれない程災害が発生しました、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

農林水産省は、「令和元年の八月から九月の前線に伴う大雨(台風十号、十三号、十五号及び十七号の暴風雨を含む)台風一九号による農林水産関係への対策を十月に発表しました。

また、福島県農林水産部は、台風一九号等の暴風雨による災害から農林水産業復旧の手引きVER二〇を十一月一日に出しました。

内容は、災害復旧の支援で、特に激甚災害指定の場合は国庫補助率が九五・七%と書いてありましたが補助率が五十%のものもあり、我々素人には分かりにくい感じがしました。

実際は、私たちが直接国や県に補助金を申請するのではなく、二本松市に申請をしているんな補助金を活用する事になります。

私の住んでいる戸沢地域は、中山間地の代表的な地域で、年々高齢化と人口減少が問題視されています。

今度の災害で農業をやめようと思っている方もいると思います。

この災害を乗り越えて農業を再開するためにも、市役所東和支所が窓口となり、住民や農家の被害受付と今後どのように復旧していくのか相談に乗ってほしいと思います。

農家は、「農地災害復旧は来春の

作付けに間に合うのか、国の補助金を使ったほうが良いのか、小規模の災害はどうすればいいのか」など不安を抱えていると思います。

ここ三十年間に地方はいろんな面で回復力が相当弱くなってきたと思います。

私が行政に期待することは、住民や農家に寄り添っていろいろな相談に乗ってあげて「山間地域でも希望を持って生活や営農ができます」と励ます事だと思います。

100%解決できないにしても、話を聞いて相談に乗ってもらうことが出来ればもっと行政が身近になるのではないのでしょうか。

その中から地域活性化の糸口が見つかると思います。

全ての答えは現場にあるのではないのでしょうか。

ちなみに、江藤農水産大臣は十月二十日、国会で台風一九号の被害で離農者が出ないように「現場ニーズを丁寧聞いて、万全の対策を講じる」と述べていました。

今回戸沢三区の本多芳司さんから大変貴重な意見をいただ

きありがとうございました。

## 令和二年 初山行

新しい年は、先ずご来光に願いを託すと言う事で暫くぶりに地元でご来光を拝める羽山山頂を目指した。

例年になく、今年は雪もなく山頂付近には初日の出を待つ人で大変な賑わいであった。

日の出近くになると一段と気温も下がりが寒さに凍えながらその時を待った、しかし、その期待は無情にも裏切られ、ご来光は分厚い雲の中・・・手にもつかまらな嫌に冷たく感じた。自然とは思いつりにいかなないもの、そう自分に言い聞かせ山頂を離れた。途中東和塾の方々が心を込めて用意してくれたなめこ汁に舌づつみをうち体が温まったところで山を下った。

東和塾の皆さんご苦労様でした。



### 戸沢六区六友会新たに活動始める

令和元年十一月二十四日午後六時より「六友会」収穫祭が戸沢六区集会所にておこなわれました。

開会に先たち紺野会長より、今回の台風19号により被害を被った方々にお見舞いの言葉がありました。

また六友会は長く親睦会活動をしてきましたが、会も中だるみの時期をむかえ新たに社会福祉協議会の協力を得て活動を再開することが出来ました、この会は、比較的同世代の人の集まりなので、何でも話せ、何でも聞き入れる古くからの仲間です、これから知恵を出し合い楽しく六友会を盛り上げてきましょうと、挨拶がありました。

今回、収穫祭なので皆さんの一年の労をねぎらい、自慢の野菜等を持ち寄り秋の定番メニューである鍋に舌つつみを中心に農業談議に花を咲かせていました。これからも笑いの絶えない楽しい六友会として長く継続されますよう希望いたします。



### 隠れ文化財 天明の飢饉石碑

東北地方は一七七〇年から悪天候や冷害により農作物の収穫が減少し農村部は完全に疲弊していた、天明三年に岩木山（青森県 浅間山）長野県が相次いで噴火し、各地に大量の火山灰を降らせ、そのため日照不足等により農産物には壊滅的な被害が生じ、深刻的な飢饉状態となった。

被害は、東北地方の農村部を中心に推定で二万人が餓死したといわれている、また全国的には一七八〇年から六年間に九十二万人の人口減となったと伝えられている。

当地域でも飢饉状態と疫病などが蔓延し相当数の人が飢えに苦しむようになったと言われています。

その様な状況を後世に伝え亡くなった人々の弔いの心を込め、南戸沢織ノ内集落入り口付近にひっそりと碑がたてられています。



### 大学生の力を活用した

#### 集落復興支援事業

#### 戸沢七区保全会活動

当組織は、戸沢七区を中心に国道三四九号線沿いの行政区で組織されています。参加している会員は、七十二戸で、サポート事業等の補助金を活用した様々な事業を展開しています、何かをやらなければこの地区は廃れてしまうとの強い意志の下で活動をしています。

今回、大学生の力を活用した集落復興支援事業「筑波大学学生と活動を共にする事で新たな改善が出来ればと、会員の方々は期待をしています。

保全会の活動は、通年色々な活動を行っています、今回台風一九号の災害を踏まえ「親子で学ぶ地域防災学習会」が催されました。今回市役所生活環境課の菅野さん、安部さんよりハザードマップを使い、その活用方法と地域の現状説明があり災害に対する認識をよく理解しておくことが大事ですとの説明がありました。これからは、台風は身近なものと考え、常に物の備えと心の準備をしておくことが大切であり、今後何が起こるか解らなくなってきた現代、地球環境等も真剣に考えなければならぬ時代になってきているのではないのでしょうか。

### 本田地区地域ふれあい会 団子さし

子供の数もめっきり少なくなり外で遊ぶ子供はほとんど見られない今、何とか地域の繋がりを持たせようと言う事で太田地区青少年健全育成協議会主催による「団子さし」が太田住民センターで催されました。

まず、会長の高橋正弘さんより「団子さし」のいわれについては「豊作祈願」「一家反映」「豊かな生活」の願いが込められた行事ですと説明があり、親子で参加された方々も手際よくみず木に団子をさし一喜一憂と言った様子でした。

最後に太田婦人会の方々に用意していただいたうどんをごちそうになり、会は楽しい余韻を残しつつ解散となりました。

